

温室メロン 病害虫対策フローチャート（特にミナミキイロアザミウマ・タバココナジラミ）

栽培終了後や次作開始前には、以下に注意して、管理作業を行ってください。

前作、「ミナミキイロアザミウマ」や「黄化えそ病」、または、「タバココナジラミ」や「退緑黄化病」が発生していた。

はい → Aへ

いいえ → Bへ

A 栽培終了後の根絶スケジュール

★：抜根して枯死させる代わりに、根付きのまま、「キルパー（殺虫剤 8F）」を土壌散布する方法もあります。（栽培後の古株枯死と、病害虫の蔓延防止が期待されますが、次作までの期間を長めに要します（裏面参照）。）

時期	作業	期待される効果
① 栽培終了時	・ 作物を抜根する・・・★ ・ 室内の雑草を除草する	吸汁できる植物を除去することで、害虫を死滅させる。
② 植物が枯死するまで	・ 温室を密閉して蒸し込む。	害虫の往来を遮断し、室内の害虫を死滅させる。 【注】 室内の植物体は、枯死しきっていないものを、室外へ放置してしまうと、病原体の拡散源となってしまいます。
③ 作物が枯死・乾燥したら	「ミナミキイロアザミウマ」や「黄化えそ病」の心配がない場合 → Bへ 「ミナミキイロアザミウマ」や「黄化えそ病」対策も行う場合 → 続けて④⑤	
④ 作物が枯死・乾燥したら	・ 粘着トラップの設置（3～5枚/棟） （ミナミキイロアザミウマ：緑） （その他アザミウマ類：青） （コナジラミやハモグリバエ：黄）	害虫が死滅したことを確認。
⑤ 害虫が誘殺されなくなったら	・ 枯死した植物残渣を室外へ搬出して処分する。	【注】 粘着トラップに害虫が誘殺される間は、新たに誘殺されなくなるまで、粘着トラップを更新しながら確認を継続する。

（Aが終わったら） ↓ Bへ

B 病害虫を発生させないための準備・対策

- ・ 随時、温室周辺の除草管理に努める。
- ・ 温室開口部に、防虫ネットを設置する（推奨は0.4mm目合い）。
- ・ 温室周辺で、病原を媒介する害虫が寄生する植物を栽培しない。（花壇や家庭菜園も要注意です。）
- ・ 育苗は専用温室で行う。（育苗中の感染は、その後の、被害拡大の要因となります。）
- ・ 定植前の薬剤灌注や粒剤処理は、定植2日前に行う（薬剤の浸透のため）。

(2025年10月追記)

キルパーの使い方 【前作の古株枯死・アザミウマ類の蔓延防止】

※ 登録上、次作の定植15日前までに使用してください。

① 栽培終了後、根付きのまま、キルパーを土壌灌注します。

(10a当りの原液量:被覆内で灌注する場合もしくは古株枯死のみを目的とする場合は40Lでも構いませんが、被覆無しでアザミウマ対策を目的とする場合は60Lとしてください。

なお、水で100倍程度を目安に希釈してから灌注してください。)

② 灌注後に施設を密閉し、3日間(25℃以上)～7日間(10℃)放置します。

③ 施設を開放し、ガスが残っていないことが確認できたら、栽培後の植物残渣を片付ける。除草も行います。

④ 水産動植物に影響を及ぼす恐れがあるため、水路に直接流れないように注意してください。

薬液残り防止のため、容器やチューブ灌水装置を洗い流してください。

⑤ 薬剤灌注後、最低15日間、次作の定植ができません(できれば3～4週間空けることを推奨します)。

片付け終了後、定植(準備)までに日数がある場合は、新たな害虫飛込み防止のため、再び施設を密閉し、土中の蛹対策のためにも蒸し込みを行いましょう。

(以上より、キルパーは、次作まで2週間以上間隔を空ける場合、または間隔を空けることで病害虫のリセットを図る場合向けと想定されます。)

※ 詳しくは、利用剤の注意書き等をよく読んでから使用してください。

(2025年10月追記)

気門封鎖剤によるコナジラミ対策

・コナジラミ対策には、殺虫剤もしくは混合剤として、気門封鎖剤の効果が期待できます。

(アザミウマ類には効果が期待できません。)

・浸透移行性、浸達性、残効性はありません。薬剤が害虫に直接付着しないと効果がないので、葉裏への丁寧な散布を心がけてください。また、定期的な散布が有効です。

・気門封鎖剤は、化学合成殺虫剤と比較して、薬剤抵抗性発達のリスクが低いと考えられています。

タバココナジラミの各発育ステージに対する気門封鎖剤^{※1}の殺虫効果^{※2} (曾根ら, 投稿準備中)

(補足)スワンスキーに

薬剤	系統	希釈倍率	卵	3齢幼虫	成虫	影響が残る日数 ^{※3}
粘着くん液剤	糖	100	×	△	◎	1日
オレート液剤	界面活性剤	100	×	○	◎	1日
サンクリスタル乳剤	油脂	300	×	◎	○	1日
エコピタ液剤	糖	100	×	○	◎	1日
ムシラップ	界面活性剤	500	×	○	◎	1日
サフオイル乳剤	油脂	300	○	◎	○	1日
フーモン	界面活性剤	1000	×	◎	△	1日

※1 ボタニガードESとの混用は薬害に注意。

※2 補正死虫率:◎(90%以上)、○(70~90%)、△(50~70%)、×(50%未満)

※3 天敵に対しては多少影響があるため注意。特に放飼直後などにはなるべく使用しないほうが望ましい。

※ 農薬使用時には必ず事前に農薬のラベルを確認し、記載されている登録内容や使用方法等を厳守すること。

※ 使用する条件や混用する薬剤によっては薬害のリスクがあるため、初めて使用する場合は、小規模の散布などで影響を確認してから、本格使用すること。